

創薬基盤推進研究事業 研究開発課題
事後評価報告書

事業名（年度）	創薬基盤推進研究事業（令和3年度～令和4年度）
研究開発課題名	有害事象の時系列解析と実証実験による創薬標的の導出
代表機関名	国立大学法人京都大学
研究開発代表者名	金子 周司

総合評価：優れている

【評価コメント】

3つの有害事象について、着実に研究計画を進めて治療標的を抽出し、モデル動物を用いた作用機構の検証や候補薬剤の選定等を含めて、解析技術の有用性を示す優れた成果を上げたことを高く評価する。また、複数の論文を国際誌で報告し、学術的なインパクトをもたらしている。汎用性の高いアプローチによって得た本課題の技術成果が、創薬研究進展へ貢献することが期待できる。

一方で、同定された作用部位と機序の妥当性や、創薬標的としての適格性について更に検証が必要であり、エビデンス追加や異なる手法の活用を含めて、検討が進むことを望む。また、実際の医薬品開発を見据えて臨床専門家および製薬企業と協力し、本技術の社会実装に向け特許満了した薬剤のリポジショニングという戦略の妥当性も精査しながら、実用化していただきたい。

以上